

桜ヶ丘だより

第 48 号
発行所

関高等学校同窓会
岐阜県関市桜ヶ丘 2-1-1
郵便番号 501-3903
電話 (0575) 22 - 5688
FAX (0575) 23 - 7089

校訓
進取
至誠
錬磨

同窓会長挨拶



会長
堀部 哲夫

6月4日の関高等学校同窓会総会におきまして会長に再選いただきました。最初に会長を承ったから3期目になります。浅学非才な私のような者が長きに渡り会長職

を務めて良いものか自問自答しているところです。

私は、この4年間を100周年(21)に向けての準備期間ととらえて活動してきました。組織の強化、同窓会の存在意義の明確化、財務基盤の確立を訴えてきました。多くの役員、同窓生皆様は助けられて何とか責務を果たしてまいりました。

組織の強化に関しては、昨年、関高同窓会東海支部が設立されました。愛知県を中心に静岡、三重

には多くの卒業生がいます。東海支部の設立は関高同窓会の長年の希望でした。役員を引き受けてくださいました同窓生の皆様方には大変お世話になりました。今後とも、東海支部が順調に続いていくことを願っています。

また、ことあるごとに同窓会の存在意義を訴え、様々な地域社会において活動している関高同窓生が協力し合うことをお願いしてまいりました。年代の壁を取り払い若い方々に多く参加していただい

て、関高の先輩、後輩としての微笑ましいお付き合いが増えてきました。

財務については、各所で挨拶をさせていただく度に会費の納入をお願いしてきました。関高同窓会の会費は2年に一度の納入です。この会費によって同窓会の運営を行っています。100周年記念行事を行うためには多額の資金が必要で、一人でも多くの同窓生に会費を納入していただけるようご協力をお願いする次第です。

今期の同窓会の活動は、本部役員、各支部の役員、事務局、同窓生、PTAすべての力を結集して100周年準備委員会を作る時だと考えます。どのような100周年を行うか同窓生全員で夢を語り合う2年間にしていきたいと思えます。同窓会皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

東海支部

第1回設立総会開催

平成27年11月29日名古屋カールデンパレスホテル栄泉の間に、東海支部第1回設立総会が開催されました。

参加者は、100人を超え、同窓会より堀部会長始め7人、蔽下岐阜支部長、福井美濃加茂支部長、今井東京副支部長、第43回生尾関市市長にご出席いただきました。学校代表として川地教頭、事務局より竹内、三輪、田下が出席しました。

東海支部設立にあたって村瀬名古屋支部長、丸尾さんに発起人会代表としてご尽力いただきました。発起人会設立後8回の幹事会を経て東海支部が設立されました。今後は年一度の総会、懇親会が開催されます。今後の支部の発展を期待します。

なお、支部長には発起人会の丸尾浩二代表が承認されました。懇親会は20回生の深川さんを中心に「高校三年生」「青春時代」を合唱され、そこに堀部会長を始め、村瀬顧問ら23人も加わり、「青い山脈」を大合唱して大いに盛り上がりしました。

学校長挨拶



学校長
三尾 寛次

「進取の気概」「至誠の心」「日々錬磨」これは、関高等学校の校訓です。昭和63年にこの校訓が制定された当時、一教員として関高校に勤務していた私は、新たに作られた校訓に一抹の不安感を持っていました。この校訓は果たして関高校の

伝統となり受け継がれるものであるのかと。

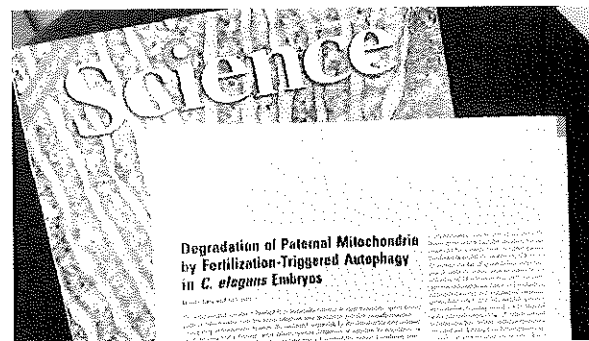
それから約4半世紀、再び関高校に勤務する機会を得て、中庭の校訓の石碑を眺めるとき、私は伝統としての校訓「進取、至誠、錬磨」を新たな気持ちを持って迎え入れています。教育には「不易(いつまでも変化しない本質的なもの)」と「流行(新しく変化するもの)」を取り入れることが重要であるといわれています。社会の変化が激しい今日、生徒、保護者そして社会や地域のニーズを受けて各高校ではいろいろな取り組みをしています。本校もグローバルな視野を

持つリーダー養成を目指して平成26年度県教育委員会からスーパー・グローバル・ハイス쿨の指定をいただき、様々な取り組みを実施してきました。英語による課題研究発表会の実施や英国ロンドンのヘイドンスクールと姉妹校の提携を結ぶ等、着実に成果をあげています。これも、新しいものを進んで取り入れ、真摯に努力を積み重ねるという校訓がしっかりと校風として根付いているからこそと感じています。

関高校は、間もなく創立100年を迎えようとしています。長い伝統に培われたものを次世代に引き継



研究室にて



「Science」誌 発表論文

プロフィール

1990年3月 岐阜県立関高等学校 卒業
 1994年3月 東京大学理学部生物学科 卒業
 1999年3月 東京大学大学院理学系研究科 博士課程修了

理化学研究所とアメリカでの博士研究員を経て2005年に日本学術振興会特別研究員として群馬大学に赴任、特任講師、助教などを経て2013年より現職。

群馬大学・生体調節研究所

准教授

佐藤美由紀（高42回生）

群馬大学・生体調節研究所は糖尿病など生活習慣病に関わる基礎研究を行っている研究所です。私はここで同じく研究者の夫とともに研究と医学部生の教育に携わっています。

私は高校時代から理系好きで、そのまま大学も理系に進みまし

た。大学3年で生命科学系の専攻に進み、実習や卒業研究で自分の手で実験をするようになると、自らの手で仮説を検証し新しい事実を見つけるという作業が楽しく、また生命の不思議に魅せられて、そのまま研究の世界にのめり込んでいきました。私が大学院生のころには日本でも活躍する女性研究者が増えてきて、研究の成果は男女関係なく評価されるようになっていたことも研究を続けるモチベーションになりました。しかし、当時の大学では長時間研究室にこ

もって実験をするのが当たり前な雰囲気、男性も女性も業績を上げていた研究者は猛烈に仕事をしていた。私は大学院生のときに結婚しましたが、夫が同業者だったこともあり、二人とも週末も関係なく大学に来て実験をする毎日を送っていました。意識が変化したのは大学院修了後に夫とアメリカの大学に博士研究員として留学したときです。アメリカでは午後6時に研究室に残っているのは日本と中国の留学生くらいで、長時間労働は、がん

ばっている証拠というより仕事が遅い人またはおバカな奴という受け取られ方でした。また、当時の研究室のボス（男性で彼の奥さんも研究者でした）は子どもが熱を出したからとお休みをするし、平日は5時過ぎには帰ってしまうし、家族旅行で長期休暇も取るしで、日本の教授たちとの働き方の違いに驚きました。また、一線で活躍する女性研究者も家庭を持ち子どももいるケースが多く、研究と家庭の両立は不可能なことではないのかなと思えるようになりました。その後帰国して息子にも恵まれ、夫や実家を始めいろいろな方の助けを受け、研究と子育てで毎日充実した生活を送っています。2011年には「Science」という国際的な科学誌に論文を発表することもできました。なかなかアメリカと同じようにはできないことも多いですが、自分の中の意識が変われば何とかなることも多いと思います。日本でも以前と比べると、女性が仕事を続けやすい環境になりつつあることも実感します。これからも研究と家庭のベストなバランスを探しつつ、どちらも大切にしていきたいと思っています。

平成28年度同窓会総会開催

副会長 川嶋 亨治（高26回生）

去る平成28年6月4日に、美濃市の「みの観光ホテル」にて、平成28年度岐阜県立関高等学校同窓会総会が開催されました。学校からは、三尾寛次校長、川地康弘教頭、来賓として同窓生でもある尾関健治市長ほか多くの方々にご出席いただきました。また、幹事学年の26・27回生の多数が出席し、総勢240人を超える総会となりました。

堀部哲夫会長は挨拶のなかで、関高同窓会として、より多くの方に関高校を知っていただくような活動を進めたいということ、また、創立100周年に向けて一緒に協力をしていきたいと思います。三尾校長からは、学校案内の冊子をもとに関高校の現状の説明や、スーパードロパル・ハイスクールとしての活動についてお話をいただきました。

その後、総会の議事に入り平成27年度の事業報告並びに、会計報告、監査報告に続き、平成28年度の新役員選出案、事業計画案、予算案等が審議され満場一致で承認されました。再任された堀部会長とともに、役員の方々が紹介されました。

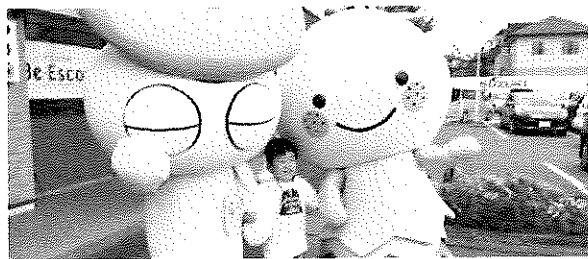
総会終了後は、懇親会と幹事学年の学年同窓会が行われました。ご出席していただいた恩師の先生を囲み思い出話などに花を咲かせました。また、幹事手作りの顔写真入りの名札やメッセージ集等でも、大いに盛り上がり、久しぶりの再会を楽しみました。

時の経つのも忘れるほどのひと時も、閉会の時間となり、名残惜しさのなか、校歌を全員で斉唱し解散となりました。この度の総会開催に向けご尽力いただいた方々に深く感謝を申し上げます。また、堀部会長のお話のように、多方面で活躍している同窓生の皆さんが強い絆で結ばれ、関高同窓会がますます発展することを心から願っております。

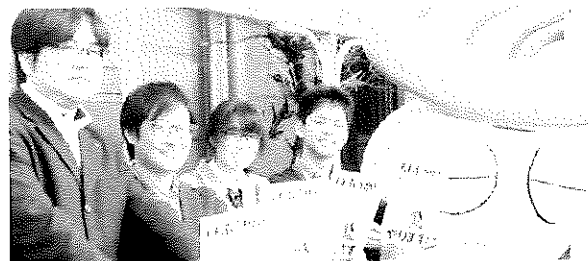
プロフィール

特定非営利活動法人せき・まちづくりNPOぶうめらん代表理事
関市市民活動センター事務局長
特定非営利活動法人ぎふNPOセンター理事

1999年 岐阜県立関高等学校卒業
2003年 金沢大学法学部卒業
2003年 名古屋大学大学院国際開発研究課入学
2004年 大学院を休学し、石川県の七尾まちづくりセンター勤務
2005年 NPO法人市民フォーラム21NPOセンター入社
2006年 名古屋大学大学院国際開発研究課修了
2007年 NPO法人せき・まちづくりNPOぶうめらん設立
関・再発見フリーマガジン「ぶうめらん」創刊
コミュニティブックカフェ「ブックエカ」開店
2014年 「高校ぶうめらん」創刊
2016年 「高校ぶうめらん」創刊
関の魅力を発信するブログも書いています。
<http://takayukik.exblog.jp>



左 ぶうめらんキャラクター「ぶう」



「高校ぶうめらん」編集部 左より2人目が北村さん、右2人は関高生徒

NPO法人
せき・まちづくり
NPOぶうめらん

代表理事

北村 隆幸 (高51回生)

関高校の卒業生で、どのくらいが関市に戻ってくるのでしょうか。多くが大学に行く現状を考えると、戻ってくる人は少ないかもしれない。私は、関市にUターンして住み続けられる魅力ある関市を作りたい、そんな想いで活動するNPO法人を経営しています。気がつけばもう9年が経ちました。具体的には、関の魅力を発信するフリーマガジン「ぶうめらん」の発行、関市民の市民活動を応援する関市市民活動センターの運営。その他、ブックカフェの運営、長良川鉄道

を生かした取り組みや、関善光寺をはじめとしたお寺を生かした取り組みなど、行政、市民、企業等をつなぐ関のまちづくりのプロジェクトだと自認しています。これまで様々な関市のまちづくり活動をしてきましたが、どうしてもやらなければいけないことを置き去りにしていました。それが、高校生です。関に戻りたいと思ってもうたためには、郷土への愛着や、関で働くイメージ、関の大人との関わりを持つてもらうことが大切。これを関の外に出る前の高校生に知ってもらいたい。それがなければ、大学の就職活動の時に、リクナビやマイナビを活用した就活で、関市に戻ることを選択肢にすら入れてもらえないと考えました。そこで、今年、「高校ぶうめらん」を創刊しました。これは、関市

美濃市の高校を通じて全生徒に配布する雑誌で、この地域で働く人を掲載しています。この雑誌で少しでも、関市で働くイメージを持つてもらえることを期待しています。そんな社会活動をしている私の、高校時代の思い出は「ボロシヤツ運動」です。制服の夏服をボロシヤツに変えようと訴え生徒会長になり、まずアンケートをとって見たら、半数以上がそれを望んでいなかったことが分かりすぐに頓挫したという落ち。今思えば、社会課題を解決する活動において、「誰がどのように困っているのか」という顧客のニーズをしつかり把握せず突っ走った悪い例ですね。そんな経験を肝に銘じつつ、「関にぶうめらんしてもらおう人を増やす」ための顧客のニーズを掘り下げた活動をしていきます。

傘寿祝いの同窓会

堀部 静子 (高6回生)

桜の蕾も膨らんだ3月末、最後のカンロク会が催されました。カンロク会とは、関(カン) 高校第6(ロク) 回卒業生の意味で、この春までに同窓生全員が傘寿を迎えるに当たり、そろそろ全員で集える機会となるので今回を最後にしようかと計画されました。同窓会の度にこれまでも何度も登場したカンロク会の立派な旗と横断幕もこれが最後の出番となりました。10年前古希祝いの集まりには名古屋の幹事さんのお骨折りで80数

人が集いましたが、3年前の喜寿祝いの時は60数人、今回も60数人、男女とも同じ数の参加者でした。この歳になると普段は仲間同士集まれば加齢による病気の愚痴話ばかりですが、この時ばかりは違います。学生時代の思い出話に花が咲き、話がはずみ過ぎて予定の時間を大きく超過してしまいました。毎回恒例、会の締めくくりとしての校歌斉唱と「高校三年生」合唱も最後となると、何とも言えず胸に響きました。あと幾ばくかの余生にこの皆さんの歌声が彩りを添えてくれるものと感じました。皆さんお顔を覚えて下さってありがとうございました。

10周年記念関高OB展への誘い

関高OB展実行委員長 石原 通男 (高6回生)

関高OB展は、平成19年に5回生が「趣味の遊々展」として開催したのが始まりです。その後、「関高OB展」に会称を変更し、全同窓生に呼びかけ回を重ね、今年10回展を迎えます。関高OB展の特筆すべきの一つは、地域で活躍する刀匠にOBがいることから刀剣部門を設けていること。二つめは会場が、築30年の古民家(5回生の堀部明世氏の生家)であること。古民家での展示はさまざまな制約はあるものの、作品の佳さを醸し出し、来場者の気持ちを和らげるようです。また開催中にはミニ同窓会が自然発生的に開かれていくようです。三つめは世代間の交流が希薄な昨今、8回展から在校生の出品も出てきました。5年後には関高創立100年を迎えるため、同窓生と在校生との合同展が開催できれば素晴らしいことだと、今から楽しみです。

第10周年記念展は、9月25日から10月2日まで8日間、関市本町7丁目の古民家画廊山麓で開催を予定しています。同窓生及び在校生の皆さんからの出品を期待しています。※問い合わせ申し込みは、事務局までお願いします。必要書類は後日送付します。

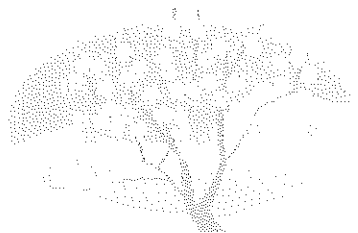
問合せ先・事務局
・堀部 明世 (高5回生) 058-232-8932
・平野 義文 (高17回生) 0575-22-6455

卒業生の進路状況

卒業年度	27	26	25	24	23
卒業生数	273	280	276	281	279
国公立大学	119	151	117	143	126
私立大学	640	756	602	737	647
東京大学	1	0	1	2	1
京都大学	0	3	3	7	0
名古屋大学	6	19	9	18	10
大阪大学	1	2	2	2	4
岐阜大学	16	25	19	24	17
早稲田大学	3	10	8	15	9
慶應義塾大学	3	4	4	8	8
南山大学	36	62	51	38	41
名城大学	51	88	75	63	64
立命館大学	39	51	49	56	58
同志社大学	19	29	17	45	31

※合格者の多い大学のみ掲載しました。

全体の約4割近くが国公立四大へ、難関私立四大にも多く進学しています。国公立大二次試験や私大入試に向かって最後まで粘る姿が印象的でした。大学進学後のさらなる飛躍に期待します。



昨年度入試をふりかえって

第68回生(平成28年3月卒業) 同窓会クラス幹事

学年幹事	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
塚原綾奈	藤井 綾斗	若井 凌弥	浪井 実季	細江 武志	水野 大樹	平田 充希	藤井 真由香
塚原綾奈	藤井 綾斗	若井 凌弥	浪井 実季	細江 武志	水野 大樹	平田 充希	藤井 真由香

平成28年度 同窓職員異動

転入	事務(事務長補佐) 森 里志(高31回)
教諭(英語)	天池 光治(高32回)
教諭(英語)	亀谷みゆき(高37回)
教諭(英語)	田下 真有(高53回)
事務(司書)	狩野 藍(高50回)
教諭(地歴公民)	坂本かな子(高49回)
教諭(国語)	坂本かな子(高49回)
事務(司書)	狩野 藍(高50回)
教諭(英語)	天池 光治(高32回)
教諭(英語)	亀谷みゆき(高37回)
教諭(英語)	田下 真有(高53回)

平成28年度 役員紹介

会長	堀部 哲夫
副会長	井上 博文
副会長	早川 知子
副会長	鈴木 良春
副会長	筒井 義和
副会長	丹羽 克彦
副会長	山田 正樹
副会長	立川 雅俊
副会長	川嶋 亨治
副会長	各務 剛児
副会長	佐藤 敏則
副会長	道家 直樹
副会長	小澤 啓二
副会長	浅野 欽一郎
副会長	堀 豊子
副会長	堀 敦夫
副会長	長尾 一郎
副会長	波多野 好文
副会長	亀澤 由香
副会長	土屋 泰弘
副会長	常川 雅道
副会長	多田 道子
副会長	岸田 万里
副会長	小川 優二
副会長	坂井 由佳
副会長	坂井 一三
副会長	神谷 泰久
副会長	古田 貴巳
副会長	樺山 舜亮
副会長	梅田 洋子
副会長	高井奈津子
副会長	野中 歌子
副会長	平田 和子
副会長	黒野理津子
副会長	長尾 歩
副会長	乾 美保子

事務局だより

▼郵送料値上げのため、昨年度より紙面での発行を隔年とすることになりました。来年度は間高校HPに掲載させていただきます。ご了承ください。また、会費の納入にご協力ください。

▼転居・市町村合併等による町名や地番の変更により、会員の皆様へのご連絡や「桜ヶ丘だより」のご送付に支障が生じております。また、個人情報保護が叫ばれる昨今の状況も考慮いたしますと会員名簿の作成・発行は非常に困難になっております。つきましては、各学年の幹事の皆様やご本人からの情報を事務局までお知らせいただけると幸いに存じます。何卒よろしく願っています。

▼学年同窓会開催の折には、事務局までお知らせください。補助金を支給しております。

▼会報掲載用の原稿を募集しております。同窓会員の皆様のご活躍の様子や、同窓会での交歓のひととき等の記事をお写真とともにお願いします。(お写真はお返しします。)

